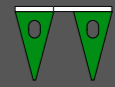


バスを利用したくなるバス停



—もっとバスを利用しよう—

沖縄の街や建物は、色や形が様々で統一性がなく街並みは「カオス（混沌）」に近い。街路樹の緑も少なく、いつも道路は自家用車であふれている。

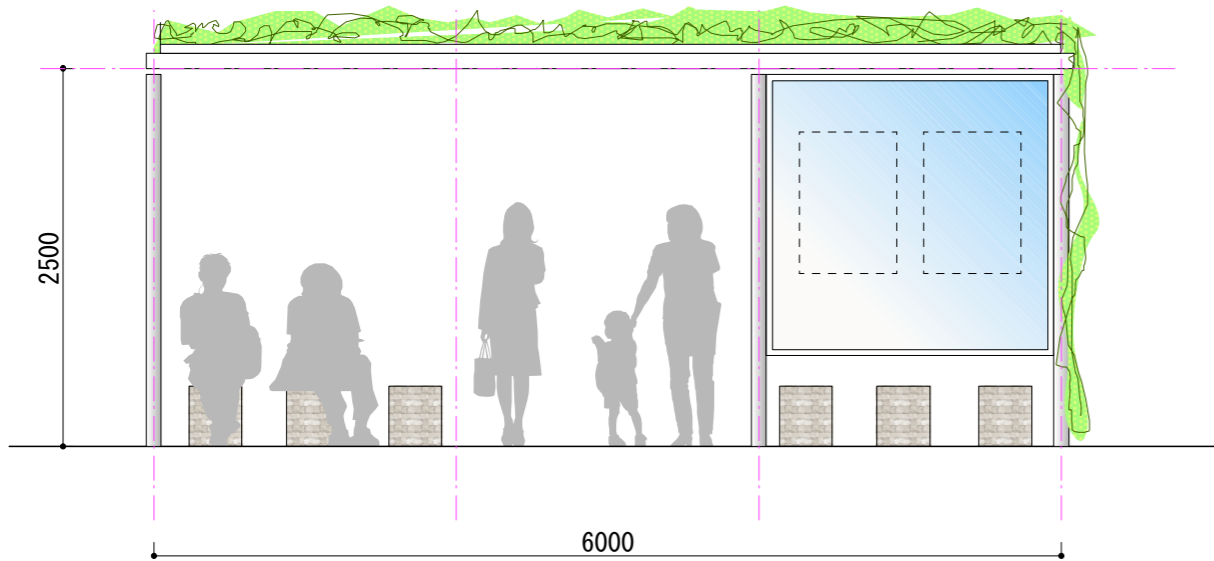
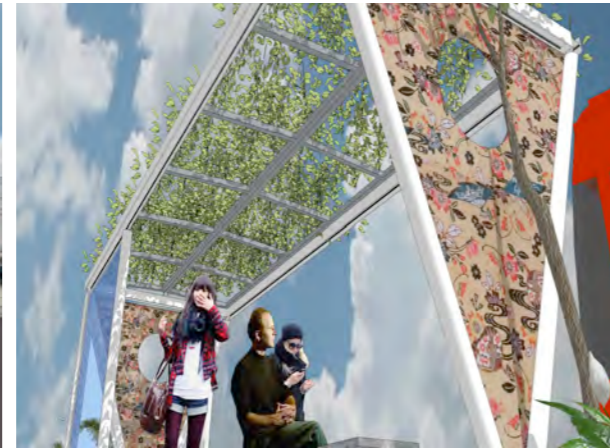
そして、バス停は道路道路の片隅においやられ、のろのろ走るバスも迷惑がられ格好悪くみすばらしい存在になっている。

そのためか誰もが今ではバスを利用しようとはしない。

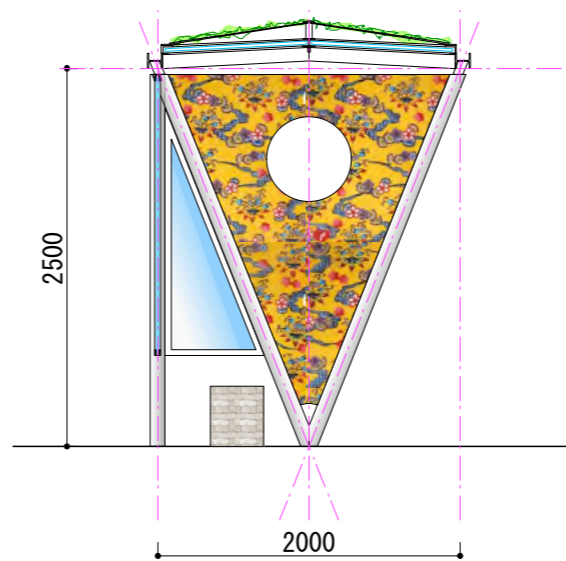
そこで、車社会の沖縄でバス停が「街の基点」となるように計画する。言い換えれば、新たな道路景観のアクセントと「公共のバス交通の誇らしさ」を示す街のシンボルとなるようなバス停をつくる。（できればバスももっとシンプル・カラフルなものとして道路を堂々とカッコよく走る存在にしたい。）

- ・形はシンプル（三角形）
- ・伝統の様（琉球紅型や琉球絣など）
- ・植物の屋根（ガラスの屋根の上に植物屋根）

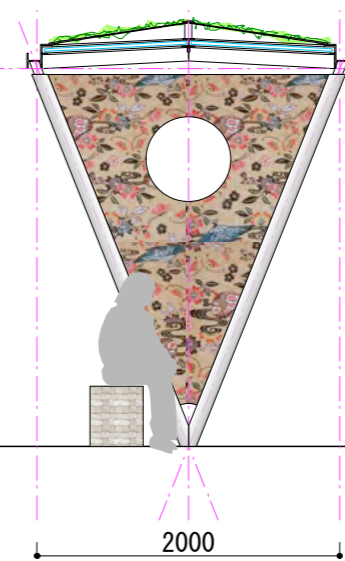
子供たちや大人もバスを利用することを自慢出来るようなバス停とする。



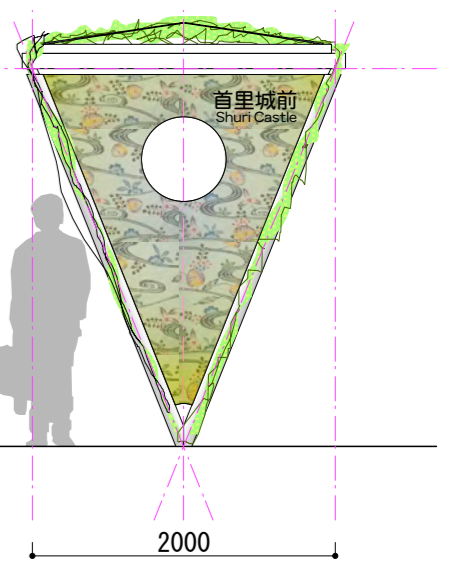
屋根はスチールフレームの合わせガラス屋根とし、その上部にワイヤーメッシュを設ける。植物が、屋根をおおうまでは、内側にシートを仮設的に貼るが繁茂したらシートを撤去。木陰の下にいてこぼれ陽と緑が見えるようにする。



角に防風パネルを取りつけられるようにする。防風パネルはスチール製で透明ガラスを入れる掲示板としても利用する。



フレームは垂鉛ドブ漬けのスチール製。三角壁は垂鉛ドブ漬けの上に塗装で着色。円形の穴をあける。石のベンチを置く。



上部にライン状のLED照明を設け、三角パネルの両面を間接照明で照らしバス停が遠くから目立つようにする。また、バス亭名称を明示する。